

機関番号：24505

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20791698

研究課題名（和文） 終末期がん患者の家族が認識するケアリング

研究課題名（英文） Perception of caring by family caregivers of terminally cancer patients

研究代表者

安藤 悦子（ANDOU ETSUKO）

神戸市看護大学・看護学部・講師

研究者番号：20363476

研究成果の概要（和文）：終末期がん患者の家族が認識する望ましい看護を明らかにすることを目的にホスピス・緩和ケア病棟でがん患者を亡くした遺族を対象に質問紙調査を実施した。質問紙は、ホスピス・緩和ケア病棟における看護 89 項目からなる。各項目に対する重要度の回答を得ることで、終末期がん患者の家族の視点による望ましい看護を探究する。

研究成果の概要（英文）：A purpose of this study is to clarify the desirable nursing that the family of the cancer patient recognizes for the end period. The object is a bereaved family who lost the cancer patient in the hospice and the Palliative care unit. The questionnaire consists of nursing 89 items in hospice, the palliative care unit.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
20 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
21 年度	800,000	240,000	1,040,000
22 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：がん看護

科研費の分科・細目：臨床看護学

キーワード：終末期看護

1. 研究開始当初の背景

(1)入院期間の短縮化に伴い、一般病棟は急性期の患者と終末期の患者が混在する中で、医療技術の高度化により、看護師の業務はますます煩雑で、複雑化している。さらに、近年の医療事故に対する一般市民、世論からの厳しい目にさらされており、安全な医療の提供に緊張を強いられている。このような状況の下、看護師は終末期がん患者の家族に対する看護の重要性は理解していても、家族と関わる時間の不足、加えて家族形態・機能、家族集団および個人の価値観も多様化しており、その実践は試行錯誤していることが多い。看護師が家族にとって良かれと思

い実践していることが、果たして、家族はどうとらえているのだろうかとの疑問が生じた。終末期がん患者の家族の視点による望ましい看護を明らかにする。

2. 研究の目的

がん終末期において、看護師のどのような言動や関わりが、家族にとって望ましい看護として認識されているのかを明らかにする。

3. 研究の方法

(1)対象

国内のホスピス・緩和ケア病棟で患者を看取

った遺族。

(2) 方法

先行研究よりホスピス・緩和ケア病棟における看護 89 項目からなる調査票を用いて、各項目に対する重要度を「1. とても重要である」から「5. まったく重要ではない」から回答を得る。

4. 研究成果

調査票を配布し、現在回収中である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

安藤 悦子 (ANDOU ETSUKO)

研究者番号：20791698

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者 ()

研究者番号：